

平成25年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1491900039	事業の開始年月日	平成20年8月1日
		指定年月日	平成20年8月1日
法人名	社会福祉法人 興寿会		
事業所名	グループホーム 興寿苑		
所在地	(〒239-0802) 神奈川県横須賀市馬堀町1丁目11番5号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成25年11月12日	評価結果 市町村受理日	平成26年2月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「高い技術、満たされたサービス、社会福祉の名に恥じない施設を！」目標に3つの「対話」を大切にします。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>ご利用者との「対話」を大切にします。<ul style="list-style-type: none"><li>いつも笑顔で敬意を持って接します。</li><li>ご利用者の人権を尊重し、自分らしい生活が継続できるよう一人ひとりの自立した暮らしを支援します。</li></ul></li><li>地域との「対話」を大切にします。<ul style="list-style-type: none"><li>地域福祉に貢献するという使命感のもと、常に地域のニーズを把握し地域福祉の一翼を担います。</li></ul></li><li>職員との「対話」を大切にします。<ul style="list-style-type: none"><li>職員一人ひとりが、目標の共有化のもと自己研鑽に努め、常に広い視野・総合性・専門性を持った職員として問題意識をもちながら職務にあたる人材の育成・発掘に努めます。そして、ともに成長し、活力に満ちた豊かな職員間の信頼関係をつくり、より組織の活性化と発展を実現しながら喜びを実感できる組織風土を造ります。</li></ul></li></ol>
---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年11月29日	評価機関 評価決定日	平成26年2月10日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> 事業所は京浜急行線京急大津駅より徒歩約8分の住宅地に立地し、夏には花火大会の楽しめる馬堀海岸の近く、温暖で静かな環境にある。</p> <p><b>【法人の理念に沿った独自の目指す目標】</b> 法人の基本理念である、安全、安心、安定を心掛けることを基本とし、ご入居者、地域住民、職員の三つの対話を大切に考えている。ホームは、全職員の思いである「自分が入りたいと思うホームにしよう」を目指している。職員はフロア毎に、半期に一度目標を掲げ、常に確認し合い日頃の介助・介護に努めている。</p> <p><b>【医療連携と看取りに関する指針の確立と実践】</b> 医療連携体制を敷き、医師と看護師が連携を図りながら、安心して医療の受診や健康相談ができる体制にある。看取り介護はいままで7名ほど実践している。重度化した場合の対応指針を説明し、利用者・家族の意向を尊重し、利用者と家族との思いを確認しながら、可能な限り、最大限の尊厳ある看取り介護を行う体制が確立している。</p> <p><b>【運営推進会議を活かした取り組み】</b> 運営推進会議は2か月に1回開催している。町内会役員、民生委員、利用者・家族などが参加している。運営内容や行事、外部評価の受審について報告し、意見交換を行い、事業所のサービス内容の開示に努めている。</p> <p><b>【家族とのおたより情報】</b> 家族には月1回、グループホーム興寿苑だよりを送り、インフルエンザ予防接種のお知らせなどの健康面や庭の野菜づくり、毎月の行事予定、往診医の来訪日、預かり金報告などを記載して家族との連絡を密にしている。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 興寿苑
ユニット名	グループホーム 興寿苑 1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、グループホーム目標を掲示し、職員間で共有し実践している。また、毎月のミーティング時に利用者の思いに沿った支援が行なわれているか確認している。	開設時の理念に併せて、職員が話し合い、ユニット毎に目標を決め、各階の事務所に掲示している。管理者は新入職員の研修時に理念や目標を説明し、職員は日頃の介護・介助の中で理解を深め実践に結びつけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	二世帯（1ユニット一世帯）として町内会に加入し、観覧版等で情報を得ている。地域の祭りや防災訓練に参加し、また、当施設の行事の際には民生委員等を招待している。	町内会にはユニット毎に加入している。地域の諏訪神社のお祭りや餅つき大会、防災訓練に参加している。事業所の夏祭りには家族と一緒に民生委員が参加している。ボランティアの方が民謡、大正琴、フラダンスを披露し、理美容、体操、お茶会、将棋にも来所している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民や民生委員等からの介護に関する相談を積極的に受け、支援・援助方法等、アドバイスしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を通じ、家族・民生委員・横須賀市と意見交換を行い、サービス向上に努めている。	運営推進会議は概ね2か月に1回イベントに併せて開催している。会議では事業所の運営状況や活動内容、外部評価の受審結果を報告し、意見交換を行い、地域の理解と支援を得て運営面に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	横須賀市との情報共有は、主にメールにて行っている。また、横須賀市の担当部署主催の講習会が定期的に行われており、出席し意見交換を行っている。	管理者は区役所の指導監査課や介護保険課に業務上の問題点を報告し、相談をしている。介護保険の要介護認定更新の際は、家族に代わって立ち会うこともある。グループホーム連絡協議会に加入し、交流研修にも参加し、情報の共有に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームでは、身体拘束を行わない方針である。但し、必要時には「身体拘束等行動制限についての取り扱い要項」に基づき行う旨を会議にて周知・徹底している。	職員は身体拘束について、月1回行うフロア会議で話し合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の鍵は施錠していない。2階のフロア出入り口は階段の近くでもあり、安全面から家族の了解を得て、施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止等の研修には積極的に参加し、会議及び研修発表会にて職員に周知し、意識を持って虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、学ぶ機会がなく、全職員には周知されていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時及び変更時には、十分な時間を割いて説明し、納得・同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議及び家族面会時に、要望・意見を聞き、会議で話し合い運営に反映している。	運営推進会議や家族の来訪時には、利用者の生活状況を話し、意見や要望を聞いて、運営に反映している。家族から入浴日以外の日には足浴の希望があり、実行している。職員に名札をつけて欲しい旨の要望に、安全面への配慮から、名札ではなく玄関と2階ユニットのフロアに職員の名前と写真を掲示している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにて、職員からの意見を集約し、ホーム長が法人本部の運営会議に出席・報告し、法人全体で運営に反映している。	管理者は、毎月のフロア会議と年2回の合同会議で職員から日常業務への要望・意見を聞き、業務の改善に反映している。職員の提案により、利用者は近くの相武幼稚園へクリスマスイルミネーションを見物に行った。フロア会議には法人の理事長か施設長が参加し、職員から提案を聞き、事業に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長または法人施設長が定期的に来苑し、いつでも話し合える環境を整えている。また、ホーム長・施設長・理事長等が職員一人ひとりを適切に評価し、適材適所の配置に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体及びホーム内、また、外部研修会に積極的に参加できるように、勤務を調整し、個々のレベルアップを計っている。また、ホーム長が中心となりOJTにて日常的に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀市グループホーム協議会を通じ、他事業所との情報交換・交流研修・その他研修会等を行い、サービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人宅へ訪問し、不安や思いを傾聴し、安心してホームでの生活が送れるよう事前に調整している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ホーム見学や事前訪問を行い、本人・家族から希望や思いを傾聴し、それ答えることで信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なケア（サービス内容）を、事前面接等で直近の課題を把握し、体制を整えお迎えするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意見を尊重し、人生の先輩として様々な指導を受けている。また、意見も傾聴し、利用者、職員が共同で生活環境改善に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等への報告・相談を常に行い、多角的な視点から支援できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活歴を十分把握し、外出や面会の調整を行っている。また、駐車場や玄関周りを整備し、面会に来やすい環境を整えている。	利用者は家族と一緒に馴染みの店へ買い物に行ったり、外食や墓参りに行く方もいる。友人や知人が来訪し、居室で歓談する際にはお茶出しをしている。年賀状や暑中見舞状が届き、返信を書き、散歩の際にポスト投函する方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう、職員が間に入るなど、利用者同士の架け橋になれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、様々な意見や相談・支援をして頂き、継続して交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を尊重し、意思表示が困難な利用者に対しては、家族等から情報を聞き取るとともに、日常生活・表情・態度などから本人の意向を読み取るよう努めている。	職員は日常の行動や表情の中から、利用者の意向や希望を汲みとるように努めている。家族の来訪時に生活歴を聞くこともある。意向を伝えにくい方には、居室のほか気持ちがゆったりとする入浴時や夜間帯に話を聞き、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前、本人・家族との事前面接をもとに、生活歴や在宅生活の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引き継ぎ（申し送り）を密に行い、身体・精神面の状況把握に努めている。また、各種記録表を活用し、情報共有を計っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて、様々な視点から意見を取り入れ、利用者個々の状況に合わせた介護計画を作成している。	入居前には、自宅を訪問し、利用者・家族と話し合い、日頃の生活状況を確認してアセスメントシートを作成している。気づきシートに基づきサービス担当者会議を開き、モニタリングし、主治医の指示を取り入れて介護計画を作成している。見直しは、通常6か月、変化があれば随時状況に応じて行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・ケース記録等にて情報共有し、実践に活かしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間や外出（外泊）を規制せず、家族の生活に合わせた面会・外出・外泊を支援している。また、当ホームのリフト車を用いて、車椅子等の利用者の外出支援も行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々に、理美容・民謡・体操・将棋等の各種ボランティアの協力を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からの、かかりつけ医の継続や、当ホーム主治医への変更等、本人・家族の意向や状態を考慮し、適切な医療が受けられるよう、支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医による医療機関を継続して受診できるように支援している。家族に代わって職員が通院介助する場合がほとんどである。受診結果は個人のケース記録に記入し、入院などの緊急時には利用者の情報を即刻介護サマリーに記入し入院先へ伝えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケース記録等で利用者の状況を記録し、看護職員及び協力医へスムーズに引き継げるようにしている。また、看護職員・医師からのアドバイスをもとに、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、協力医を通じ直接情報提供を行い、また、ホームより介護サマリーを提供し、早期退院できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における介護が必要になった場合に、指針に基づき当ホームでの対応できる範囲を説明・同意を得て、常に医師、看護師及び家族との連携を図り、情報を共有し取組んでいる。	いままでに7名の看取り介護を行っている。利用者・家族には、入居時に重度化した場合における対応の指針を説明している。利用者の状況や事前確認書により、意思の確認を行い、希望を把握している。看取りに関しては医師の診断の基に、家族の要望と協力により、看取り介護についての同意書を得られ、可能な限り尊厳ある看取り介護を目指している。職員はこれらの方針を共有し、勉強会を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを用いて、対応するよう職員に徹底している。また救急法の研修にも定期的に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行うと共に、地域の方々にも協力依頼をしている。	防災・避難訓練は、消防署の協力を得て、年2回行い、うち1回は夜間想定の実施している。訓練には地域の民生委員、近隣の方が参加し、避難・誘導の役割を担当している。消防署からは利用者は駐車場へ避難するように指導されている。非常災害時の食料・飲料水は若干ある。	法人の来年度予算で、保管庫として物置の購入を検討しています。非常災害時の食料・飲料水は、もう少し増量し、事業所独自で3日分は備蓄することを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への配慮を心掛けた声掛けができるよう、禁句集を掲示し徹底している。また、採用時に接遇に関しての研修も行っている。	職員は入職時に守秘義務についての誓約書を提供している。日頃よりプライバシーを損ねることのないようにゆっくり低い声で、笑顔で話しかけるように心掛けている。個人情報を含む書類は、錠のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望・自己決定を尊重し、本人の意思やレベルに合わせた支援を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員と一緒に買物や散歩の外出や、入浴・食事時間などは、個々の生活リズムに沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティアによる理美容サービスに月1回来て頂いている。またパーマ・毛染め等の希望の場合は近隣の美容院まで付き添いを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のレベルに合わせ、食事の準備や下ごしらえ、後片付けなど、職員と一緒にしている。	利用者は職員と食材の簡単な下処理、テーブル拭き、盛り付け、後片づけ、食器洗いなどを行っている。職員は食事介助をしながら、利用者と一緒に食事をしている。副食にはらっきょや梅干しなどの利用者の好きなものを提供している。時には回転寿司や牛丼などの外食に行っている。誕生会にはケーキを食べて祝っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を法人の管理栄養士に確認して頂き、指導を受けている。食事摂取量及び水分摂取量を都度記録に記載し確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台にて口腔ケアを行い、また、週1回歯科医の往診時に個々の状況の確認をして頂き航空ケアの指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排せつパターンを把握し、事前の声掛けや誘導を行い、おむつ使用や失敗を減らす支援を行なっている。	排泄ラウンド確認表により、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を支援している。利用者の動作（そわそわしたり、立ち上がったたりして落ち着きがなくなるなど）から察知してトイレへの声かけをしている。入居時にリハビリパンツから布パンツへ、18名中6名が改善された。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便の有無を確認し、食事・水分・軽運動等工夫している。また、やむを得ず下剤を使用する場合は、主治医の指示のもと、服薬介助を行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日・時間帯を定めず、利用者の希望に沿って入浴して頂いている。	入浴は基本的には3～4日に1回で毎日入浴する方もいる。シャワー浴や足湯を希望する方もいる。入浴をしたがらない方には声かけする職員を変えたり、「散歩に行って汗をかいたので着替えましょう」と声かけを工夫している。季節にはゆず湯や菖蒲湯を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に応じて、適度な運動や散歩を取入れている。また、昼寝の促しや、就寝時間の声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェックや個々の服薬情報・副作用出現について職員間で共有し、把握に努めている。また、身体面・精神面での変化を常に確認し、主治医と連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴の中で、役割を見出し、日常生活の活性化を促している。また、季節感を味わえるイベントを実施し、気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑・庭園の手入れや散歩外出を促し、できる限り戸外へ出る機会を多く作っている。また、一人ひとりの状態に合わせ、車イスの方も、リフト車での外出を行っている。	天気の良い日には、車いすの方も、近くの諏訪神社、浦賀コープへ行き、歩いて10分程の馬堀海岸に散歩に行くこともある。海岸には散歩道があり猿島の景色を眺めている。玄関前には、テーブルと椅子を置き、2階はベランダでそれぞれ外気浴を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理（預り）はホームで行っているが、買物等で支払う際は、ご自身に財布を持って頂き、一緒に支払いを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子機を利用し、自室で電話ができるようにしている。また、手紙の代筆を職員がするなどし、支援を行なっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔面に気を配り、食堂は常に利用者が寛げるように配慮している。また、季節感のある装飾等で工夫している。	リビングは明るく清潔に保たれ、加湿器を置き、温・湿度にも配慮している。2階の天井はログハウス風で高く、圧迫感がない。リビングの座席は気の合った人同士が座れるように配慮している。紅葉の貼り絵やクリスマスツリーを飾り、季節感を感じ、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテレビ前に、談笑できるスペースを確保している。また、屋外にもテーブルやイスを置き、居心地の良い空間を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に入居の際、本人の使い慣れたものを持参して頂き、居室内は本人・家族の意見を取り入れ、居心地よく過ごせる環境にしている。	居室は使い慣れた机や椅子、ベッド、整理ダンス、テレビを置き、家族の写真や仏壇を飾っている。書道の作品、米寿のお祝い写真などを飾り、一人ひとりが家庭と同じ雰囲気の中で居心地よく暮らせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、トイレ・浴室・廊下等に手摺を設置するなど、利用者個々の状態に応じたケアができるよう、環境整備を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム興寿苑

作成日 平成26年2月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事業所独自で非常災害時における備蓄が少ない。	同法人（横須賀市池上）に、グループホーム入居者及び職員の日分の備蓄はあるが、ホーム内に飲料水・食糧を備蓄できるスペースを確保する。	建物内倉庫の整理及び屋外にスペースの確保（物置等の設置）を検討。ホーム独自で3日分の食料・飲料水が備蓄できる環境を整える。	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。